

## 博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学

研究科名 スポーツ科学研究科

申請者氏名 並木 伸賢

学位の種類 博士（スポーツ科学）

論文題目 Career transition research on student-athletes: Considering athletic career path

大学生アスリートのキャリア移行の検討－競技者としてのキャリアを踏まえて－

論文審査員 主査 早稲田大学教授 堀野博幸 博士（人間科学）（早稲田大学）

副査 早稲田大学教授 松井泰二 博士（コーチング学）（筑波大学）

副査 早稲田大学准教授 佐藤晋太郎 Ph.D.（フロリダ大学）

アスリートおよび大学生アスリートのキャリア支援は、アスリート本人からの要請のみならず社会的にも重要な課題と位置付けられている。その一方、競技引退後や大学卒業後の進路に関する研究は少なく、中でも彼らへの実際の支援・介入や競技者としてのキャリアを含めてキャリア移行の経験について調べた研究はあまりみられない。このような背景をもとに、本博士論文は以下に示す3点について検討した。

(1) 大学生アスリートに対するキャリア移行を促す支援に関する研究について文献レビュー

を行い、本領域の現状および展望を記述すること（第2章）。

(2) 本大学生アスリートのキャリア移行に関する経験について、競技者としてのキャリアも含めて記述すること（第3章）。

(3) 競技者以外のキャリア（主に就業に関連するキャリア）のみならず、競技者としてのキャリアについてもキャリアと捉え、彼らの抱える困難について検討する測定尺度の整備を行うこと（第4章）。

第2章では、大学生アスリートのキャリア移行を促す支援について文献レビューを行った結果、理論的背景、研究デザインと結果について、頑健なデータは得られていないこと、競技者としてのキャリアに対する支援方法は未だ確立されていないが示唆された。その一方、大学生アスリートが自身のキャリアについて早期から主体的に考えることの重要性が示唆された。またキャリア支援担当者や支援機関では、アスリートの考えに基づく支援アプローチを展開することで、大学生アスリートのキャリア支援に貢献できることが示唆された。

第3章では、大学生アスリートのキャリア移行に関して、半構造化面接を用いてインタビュー調査を実施した。その結果、大学生アスリートは、キャリアに対して主に3つの考え方（競技者としてのキャリアを追求する、競技者以外のキャリアを追求する、競技者と競技者以外のキャリアについての選択肢を持つ）とそれぞれに付随する障壁を感じ、対処方法を取っていることが明らかになった。この結果は先行研究の結果を支持するものであった。加えて、競技者としてのキャリアの認識を再構築することを支援モデルに組み込むことで、彼らのキャリア移行の経験を円滑にできること、そして彼らの感じるキャリア構築に関する障壁を実態に即して理解する一助になることが考察された。

第4章では、大学生アスリートのキャリア困難感を測定する尺度（以下、困難感尺度）を

作成し、信頼性・妥当性を検証した。分析の結果、①競技者以外のキャリアに対する困難、②競技者としてのキャリアを追求することの困難、③競技者引退後のキャリア・生活に対する困難の3因子構造16項目が得られた。再検査信頼性（2時点の級内相関係数）、内的整合性（Cronbachの $\alpha$ 係数）、構造的妥当性（異なる対象者での確認的因子分析によるモデル適合度）、基準関連妥当性（既存尺度との相関分析）について概ね満足できる結果であり、本尺度は一定の信頼性・妥当性が確認された。これにより、第3章で示された障壁のうち、大学生アスリートのキャリア移行において対処すべき主要な因子が特定され、今後の支援におけるアセスメントの視点を提供することができるものと考察された。本研究で作成された尺度を活用しデータを蓄積することで、アスリートのキャリア支援に関する効果の検証とともに、効果的な介入のガイドライン作成が期待できる。

これら一連の研究は、大学生アスリートのキャリア移行を促す支援について、その課題改善に資する非常に意義深い研究である。作成された評価尺度をスポーツ現場で活用することで、彼らのキャリア移行に関して取り組むべき個別の課題を客観化できるようになる。その結果をもとに適切な支援を行うことで、大学生アスリートのキャリア移行を促進できる。また支援を通してキャリア移行への不安を軽減することで、限られた競技キャリアへポジティブな効果も期待できると考えられる。加えて、これらの研究内容は高度な専門的知識に基づいた本研究科入学後の研究成果であり、独創性と学術的意義及び社会的便益を持つものである。これらのことから、本博士論文が博士(スポーツ科学)の学位を授与するに十分値するものと認める。

#### <関連論文>

1. 並木伸賢・堀野博幸（2022）プロサッカー選手を対象とした研究における心理面に関

- する文献レビュー. スポーツ心理学研究, 49 (2) : 137-156. (第 1 章)
2. 並木伸賢・堀野博幸 (2023) 大学生アスリートに対するキャリア移行支援に関する文献レビュー—効果的な支援構築の提案に向けて—. スポーツ心理学研究 (早期公開). (第 2 章)
  3. Namiki, N. and Horino, H. (2023) Career transition experiences of Japanese university student-athletes: A qualitative study. スポーツ科学研究, 20 : 96-113. (第 3 章)
  4. 並木伸賢・堀野博幸 (2023) 大学生アスリートのキャリア困難感尺度の作成の試み. スポーツ科学研究, 20 : 141-158. (第 4 章)

以上